



山本 徹 (バロックチェロ)

東京藝術大学器楽科、同大学院古楽専攻、及びチューリヒ芸術大学修了。チェロを土肥敬、河野文昭、北本秀樹、鈴木秀美、ルール＝ディールテインスの各氏に師事。バッハ・コレギウム・ジャパン、オーケストラ・リベラ・クラシカ等、国内のオリジナル楽器オーケストラの主要メンバー。オーケストラ・アヴァン＝ギャルド及びプロムジカ・バロック・アカデミー首席奏者。

2008 年第 16 回ライプツィヒ国際バッハ・コンクール第 2 位。2011 年ブルージュ国際古楽コンクール審査員賞、及びオランダ・ファンヴァッセナル国際コンクール優勝。2006 年に第 2 位を受賞した国際古楽コンクール<山梨>では 2017 年に審査員を務める。

2025 年 4 月より東京藝術大学古楽科講師。



野津 真亮(バロックチェロ)

国立音楽大学音楽学部演奏学科卒業。東京藝術大学大学院古楽科修士課程修了。喜久里誼、藤森亮一、鈴木秀美各氏に師事。また、Philippe Muller、Anner Bijlsma 各氏の指導を受ける。現在はオーケストラ・リベラ・クラシカ、オーケストラ・アヴァン＝ギャルド等のオーケストラ他、室内楽奏者として活動。国立音楽大学大学院演奏助手、出雲芸術アカデミー講師。



上尾 直毅(チェンバロ)

東京藝術大学器楽科ピアノ専攻卒業。在学中、山梨の第 6 回古楽コンクール旋律楽器部門で「通奏低音賞」を受賞する。チェンバロを山田貢、鈴木雅明、渡邊順生の各氏に師事。卒業後オランダに渡り、チェンバロをグスタフ・レオンハルト、アンネッケ・アウテンボッシュの両師に師事、続いてフォルテピアノをスタンリー・ホーランド氏に師事しそれぞれソリストディプロマを得て卒業。オランダではデン・ハーグ王立音楽院古楽器科の伴奏員、オランダ室内管弦楽団のチェンバロ奏者などを勤めた。2001 年に帰国後、国内を中心に数々の演奏会や録音などで活躍している。2017 年には上野学園大学が所蔵するオリジナルのタンゲンテンフリーゲル(タンジェントピアノ)を用い、鈴木秀美指揮オーケストラ・リベラ・クラシカと共にモーツァルトのピアノ協奏曲第 9 番《ジェノミ》を演奏し、この公演の様子は NHK「クラシック音楽館」で放映され好評を博した。雑司ヶ谷「拝鈍亭」にて 2012 年から行ってきたハイドンの「鍵盤独奏作品全曲演奏会」と「ピアノトリオ全曲演奏会」(オリジナル楽器による)をそれぞれ 2021 年、2023 年に完結した。2021 年にアカデミア・ミュージック社から刊行されたバロック時代の伴奏法のための教則本「通奏低音の練習」は高い評価を得ている。

2021 年にアカデミア・ミュージック社から刊行されたバロック時代の伴奏法のための教則本「通奏低音の練習」は高い評価を得ている。



徹の部屋

Vol.6

2026年4月11日(土)

14時開演 (13時半開場)

今井館聖書講堂 (駒込)



一般 4,000 円/学生 2,500 円

徹の部屋 vol.6 は、一昨年発売した CD でご一緒させていただいた上尾直毅さんと野津真亮さんを再びお迎えして、ヴァイオリン教則本の著者としても名高いジェミニアーニのチェロソナタ全 6 曲をお届けいたします。18 世紀前半のチェロソナタのなかでもヴィヴァルディと並ぶ名曲でありながら、なかなか全曲まとめて演奏される機会は多くありません。そして今回はヴァイオリン教則本の *Composizione* やヴァイオリンソナタも演奏して、彼の音楽の魅力により深く迫りたいと思います。

ジェミニアーニ：チェロと通奏低音のためのソナタ op.5 他

チェロ：山本 徹、野津 真亮 チェンバロ：上尾 直毅

お問い合わせ・お申込み：<https://scordatoru.wixsite.com/toru-yamamoto/contact>

(右下の QR コードからお申込みいただけます)

会場：今井館聖書講堂 (駒込駅徒歩 11 分) 文京区本駒込 6-11-15

